

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	中央区
学校名	中大江小学校
学校長名	片岡 万喜雄

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・中大江小学校では、第6学年 95名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

結果から、今年度も、児童の学力については概ね定着していることが明らかになった。平均正答率では、全国の平均と比較して、国語7.2%、算数12%、理科8.9%上回っていた。国語では、学習指導要領の内容別で見たときに、「話すこと・聞くこと」「読むこと」において、特にしっかりと理解できていた。算数では、学習指導要領のどの領域においても、平均正答率が全国・大阪市を大きく上回っていた。理科では、学習指導要領の「粒子」「生命」を柱とする領域で、学習が定着している傾向が見られた。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕 度数分布表から児童の実態を見ると、正答率の高い区分の児童の割合が多く、無回答率も低かった。しかし、「漢字」を書く問題については、全国・大阪市平均より無回答率が多かった。また、内容別の「書くこと」については、文章を要約して書く記述式の問題で、平均正答率が全国と比較すると唯一下回っていた。

〔算数〕 全体の無回答率は全国・大阪市より低い傾向にあった。しかし、評価別観点の「知識・技能」の項目において、無回答率が高い問題があった。基礎的・基本的な学習内容のさらなる定着が必要である。

〔理科〕 学習指導要領の「エネルギー」を柱とする領域で、正答率が全国・大阪市平均を下回る問題があり、無回答率が高い問題もあった。理科教育推進校として、実験や観察に力を入れ、学力向上を図っているが、この領域では学習が定着していない児童が見られた。

質問調査より

児童質問紙から、今年度も、「早寝」「早起き」「朝ごはん」など、基本的な生活習慣がしっかりとしている落ち着いた家庭が多いことがわかった。また、学校外での学習時間について、全国・大阪市と比較して長い児童が大変多いことや、家庭にある本の冊数が多いことなど学習に向かう環境が整っている児童が多い傾向も明らかになった。学習についての質問項目「得意」「好き」「よくわかる」といった内容については、全国・大阪市と比較して肯定的な回答がどの教科も高く、前向きに学習に取り組む姿が見られた。また、話し合いながら学びを深めたり、学んだことを活用したりしていることについても、肯定的に回答する児童の割合が高かった。さらに、学校生活についても、比較的落ち着いて過ごしているという結果が出た。例年課題になっていた自尊感情に関わる項目においては、今年度、肯定的に回答する児童の割合が高かった。しかし、「そう思わない」と回答する児童の割合が全国・大阪市と比較して高く、課題が見られた。

今後の取組(アクションプラン)

学習に前向きに取り組み、概ね学習内容が定着している児童の様子から、家庭の教育力に加えて、言語活動を軸にした本校のこれまでの取組の成果が学力に表れていると考える。今後さらに向上させるためには、国語の結果で明らかになった、文章を要約してまとめる力を持つなど、活用について取り組む必要がある。また、児童質問紙のICTの使用についての項目では、児童は自分自身のICTの活用能力が高いと回答する児童が多かった。しかし、ICTの使用頻度を尋ねた項目では、全国・大阪市と比較すると、児童はあまり使用していないと捉えていた。ICTについても、これまで以上に活用場面を増やし、主体的に取り組めるようにする。さらに、学校生活上の課題を自分たちで話し合って解決する学級会等についての質問項目では、肯定的に回答する児童が多かった。これまでの取組が成果として現れた結果と考える。主体的に学級、学校生活に関わる児童については、学力が高い傾向にあるという報告もある。今後も、豊かな学びにつながるように、特別活動の充実を図る。

【 全体の概要 】

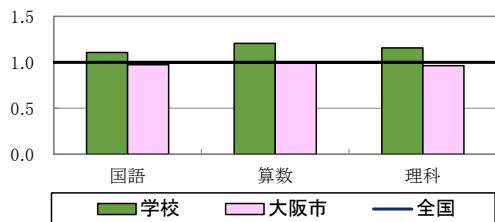
平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	74	70	66
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

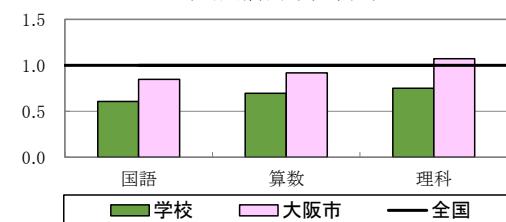
平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	2.0	2.5	2.1
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



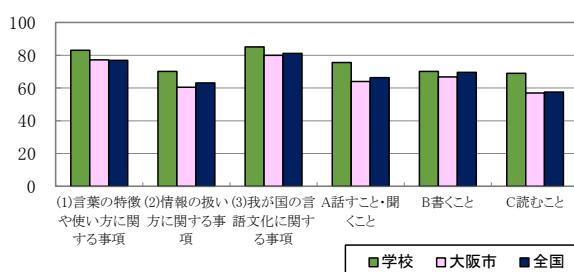
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	83.0	77.1	76.9
(2)情報の扱い方にに関する事項	1	70.2	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	85.1	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	75.5	64.0	66.3
B 書くこと	3	70.2	66.7	69.5
C 読むこと	4	68.9	56.9	57.5

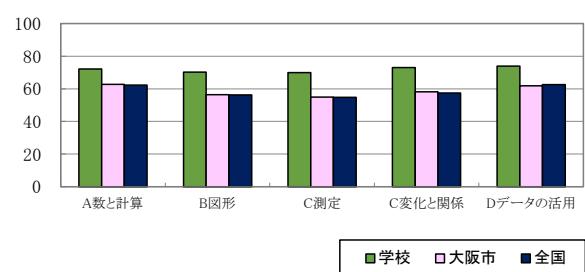
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	72.2	62.7	62.3
B 図形	4	70.3	56.4	56.2
C 測定	2	70.0	54.9	54.8
C 変化と関係	3	73.0	58.2	57.5
D データの活用	5	73.9	61.9	62.6

国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



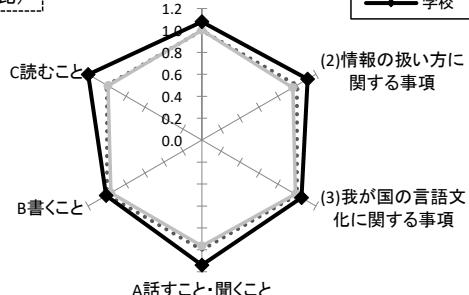
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

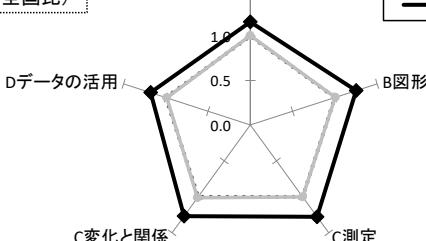
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項
(2)情報の扱い方にに関する事項
(3)我が国の言語文化に関する事項

..... 全国
— 大阪市
— 学校



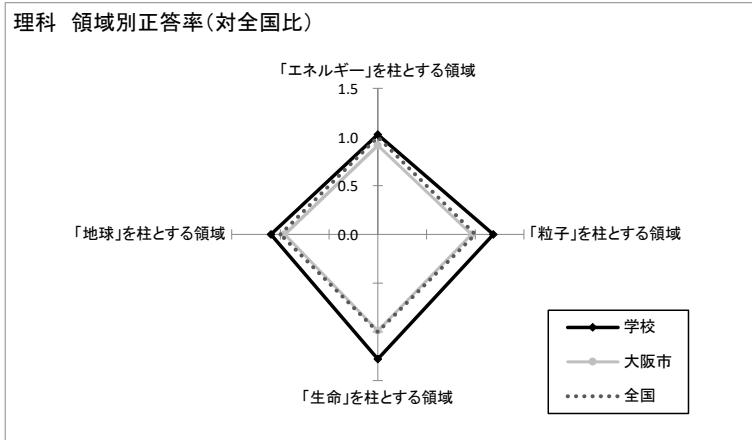
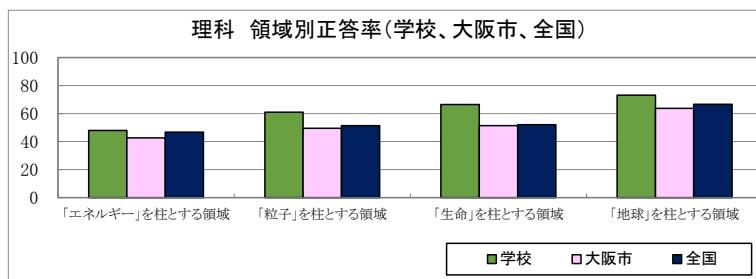
算数
領域別正答率
(対全国比)

..... 全国
— 大阪市
— 学校



【 理科 】

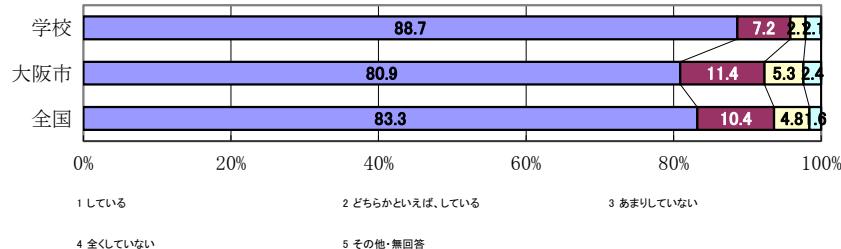
学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	47.9	42.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	61.0	49.5
B 区分	「生命」を 柱とする領域	4	66.5	51.4
	「地球」を 柱とする領域	6	73.2	63.8



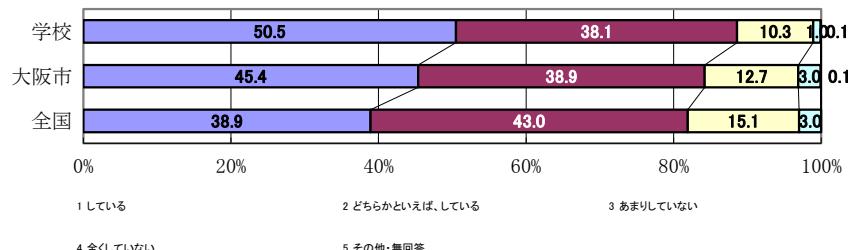
児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

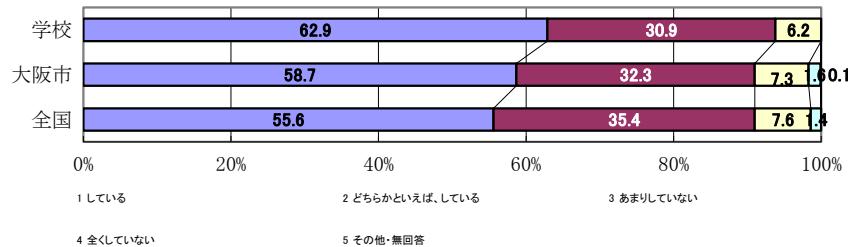
質問番号
質問事項
1
朝食を毎日食べていますか



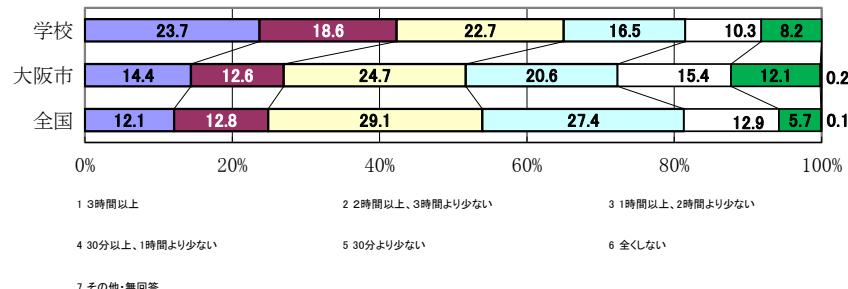
2
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



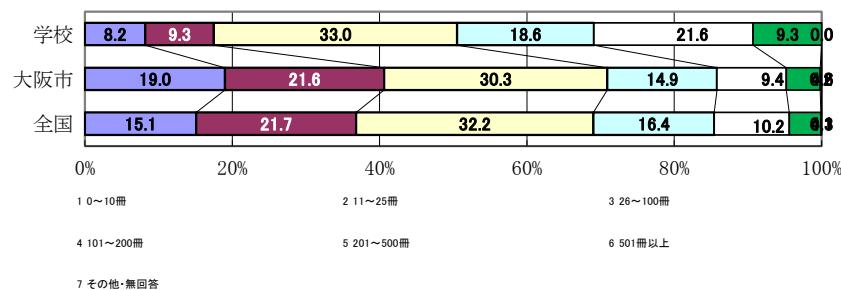
3
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



17
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



22
あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか(雑誌、新聞、教科書は除く)



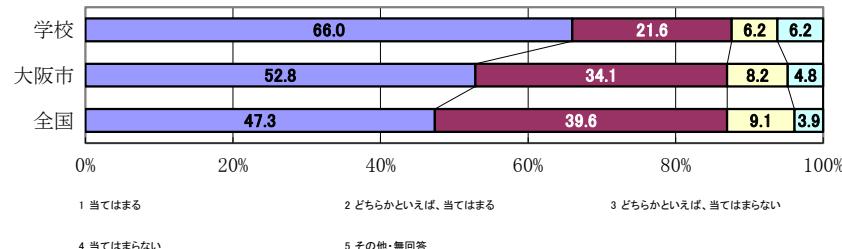
児童質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

5

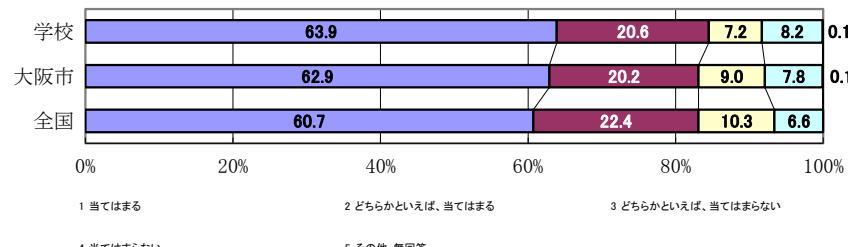
自分には、よいところがあると思いますか



1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない 5 その他・無回答

7

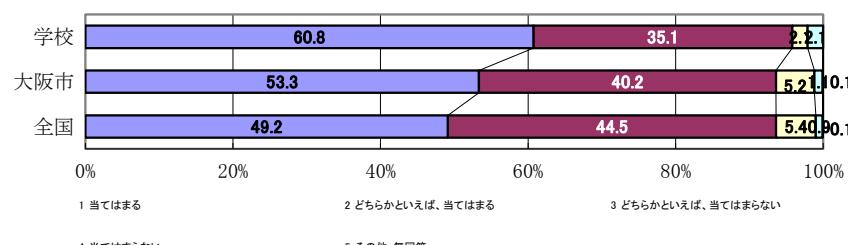
将来の夢や目標を持っていますか



1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない 5 その他・無回答

8

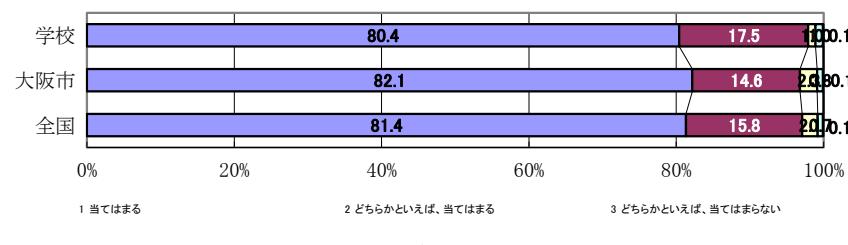
人が困っているときは、進んで助けていますか



1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない 5 その他・無回答

9

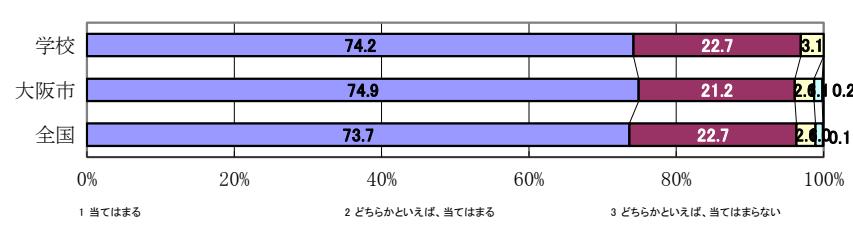
いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない 5 その他・無回答

11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない 5 その他・無回答

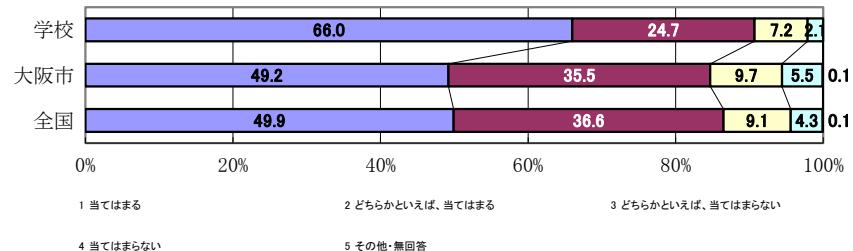
児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

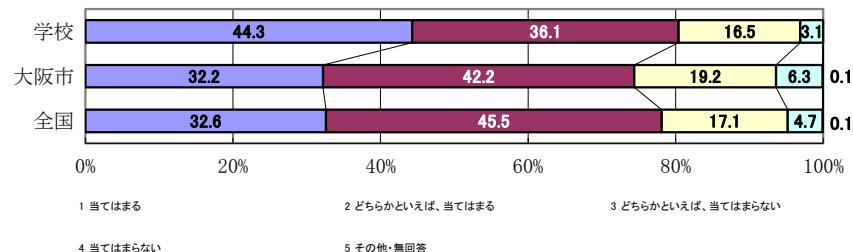
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



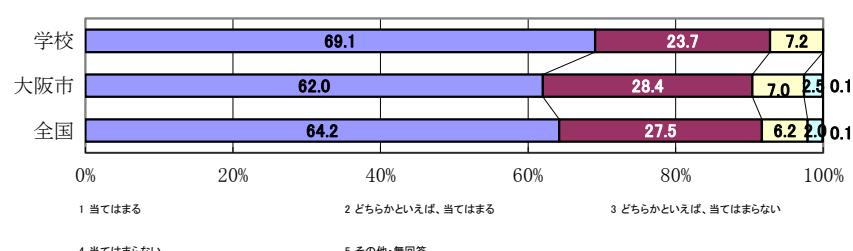
13

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



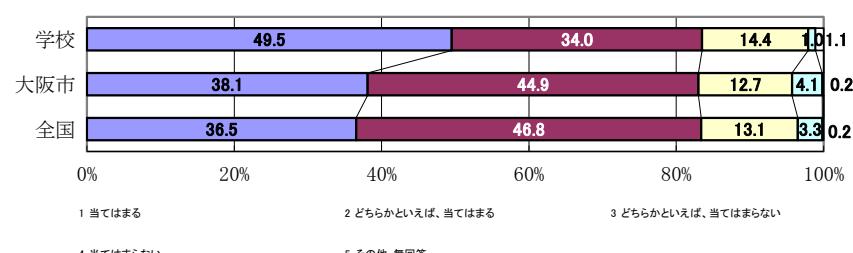
14

友達関係に満足していますか



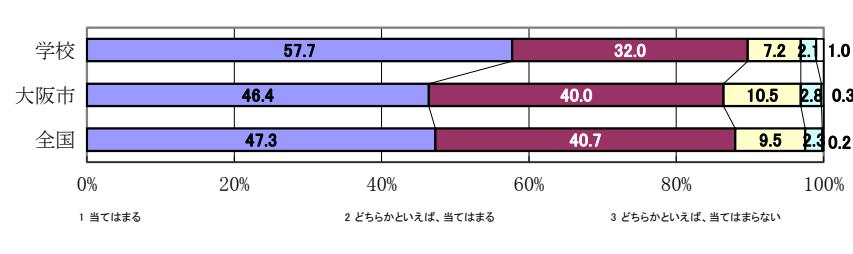
41

あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか



43

道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか



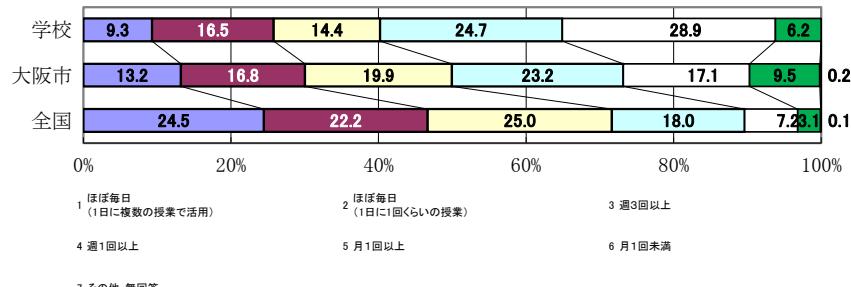
児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

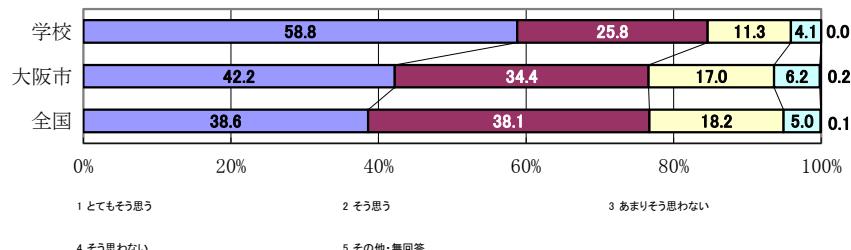
28

5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



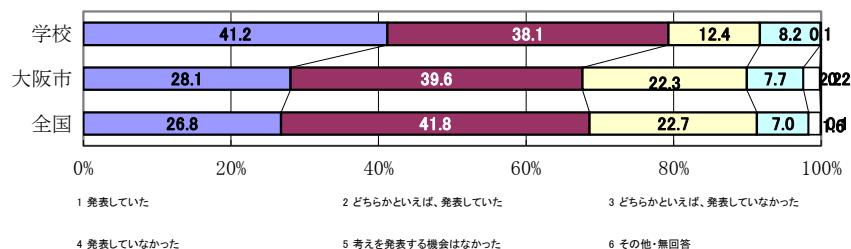
75

あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができると思いますか



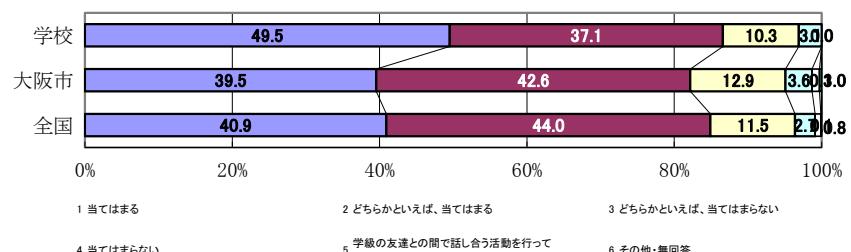
31

5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



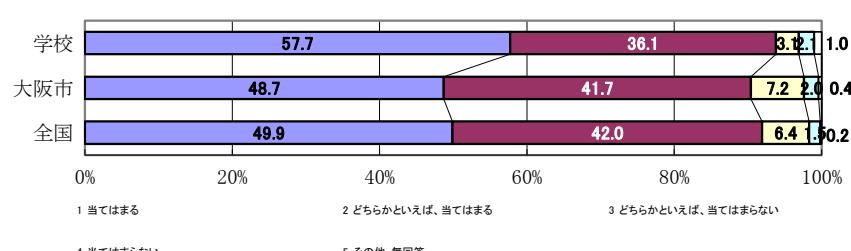
35

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができますか



39

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



学校質問より

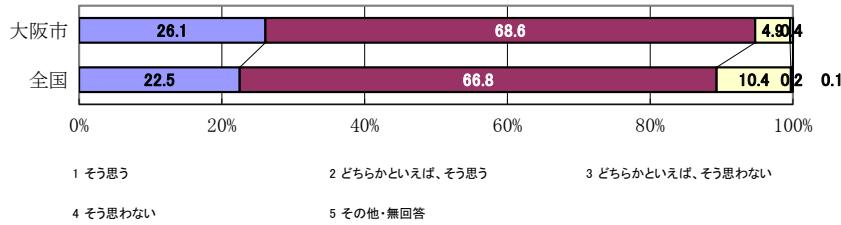
■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

25

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

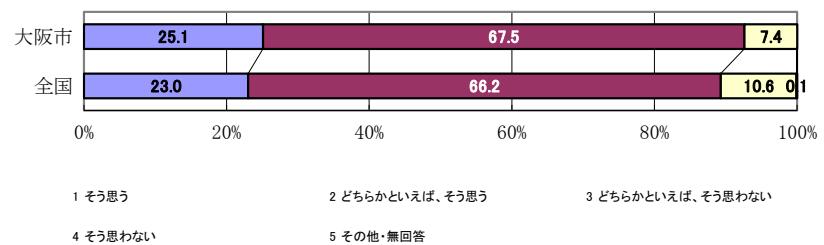
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



27

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

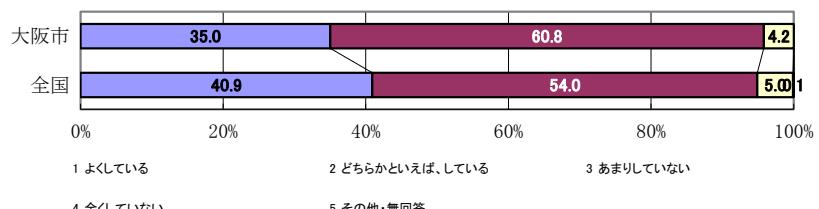
学校 「そう思う」を選択



37

調査対象学年の児童に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか

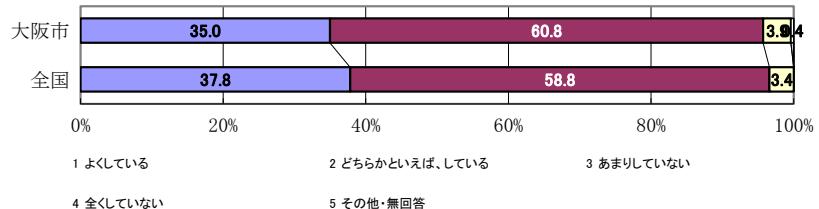
学校 「どちらかといえば、している」を選択



39

調査対象学年の児童に対して、特別の教科 道徳において、取り上げる題材を児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫を行っていますか

学校 「よくしている」を選択



58

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 「ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業)」を選択

